

## 理科

### ◆概要◆

すべての設問が番号選択である点、総設問数や分野別の配列は例年どおりでしたが、大問ごとの設問数には一部変更が見られました。学年別の出題内容では中1・中2内容の割合が増加し、特に中2内容が半数近くを占めました。一方で中3内容は減少しています。選択肢数の観点では、昨年度と比べて6択が減少し、4択が増加しました。9択問題は出題されませんでした。8択以上の設問数は前年と同程度でした。

問1～問4は教科書レベルの基本事項が中心で、前半で得点を確保しやすい構成でした。問5以降は例年どおり思考力や処理力を要する設問でしたが、難度は標準的でした。問7では、与えられたデータをもとに初見の実験について考察する問題が出題されました。表や数値に基づいて穴埋めを行いながら計算・考察を進める設問も見られ、条件整理を段階的に行う力が求められました。

資料を用いた設問は複雑な条件設定ではなく整理しやすい構成でしたが、知識問題では用語の意味や現象の理解を細部まで問うものや完答形式の設問もあり、正確な知識の定着が必要でした。基礎知識で対応できる問題が多く、前半で得点しやすかったことから、平均点は昨年度よりやや上昇すると考えられます。教科書の内容を細部まで正しく理解しておくことが、高得点獲得の条件となるでしょう。

### ◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

問1：音、フックの法則、力の合成やつり合いといった物理分野の基本事項からの出題でした。(イ)はグラフからばねののびやすさを判断する問題で、基礎知識が定着していれば正答に至りやすい内容でした。

問2：物質の性質、質量パーセント濃度と密度、化学反応のモデル図など、中1・中2化学分野の典型的な内容でした。いずれも教科書内容の理解で対応可能な問題でした。

問3：生物分野の基本事項が中心でした。(イ)(ウ)は文章中の条件を正確に読み取る必要がありましたが、設問自体は平易でした。

問4：火成岩の組織とでき方、地層のでき方、気圧など、中1・中2地学分野の基本的な内容でした。実験結果や露頭の様子から成因や堆積環境を判断する典型的な思考問題でしたが、結論を導くための根拠が明確で取り組みやすい内容でした。

問5：電流による発熱の実験をもとに、回路図、電流・電力の計算、温度変化の読み取り、エネルギー変換効率の計算を段階的に考える問題でした。計算量が多く、適切な時間配分と正確な処理が求められました。

問6：金属のイオンへのなりやすさとダニエル電池に関する問題でした。イオン数の変化や電子の移動の向きを正しく捉えられるかがポイントとなる典型的な内容で、難度は標準的でした。

問7：ネギの光合成と呼吸に関する実験を題材とし、対照実験の考え方、結果の読み取り、仮説検証の方法を総合的に問う問題でした。二酸化炭素濃度の変化をグラフから整理し、複数の資料と対応させて考える必要があり、本年度で最も思考力を要する設問でした。資料を論理的に読み取る力の差が、得点差につながりました。

問8：太陽の黒点の観察記録をもとに、黒点の性質と大きさ、地球の公転との関係、太陽の自転周期を考える問題でした。(エ)では地球の公転を踏まえて観測される周期と実際の自転周期の関係を考える必要があり、やや難度の高い設問でした。